



2025 年 11 月 13 日

各 位

会 社 名 ス テ ラ ケ ミ フ ァ 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 橋 本 亜 希
 (コード番号：4109 東証プライム市場)
問 合 せ 先 取 締 役 執 行 役 員 経 理 部 長 中 島 康 彦
 (TEL. 06-4707-1512)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応（アップデート）

当社は、本日開催の取締役会において、「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」について、現状の分析・評価や取り組みの進捗状況を踏まえ、開示内容のアップデートを決議しましたので、お知らせいたします。

詳細につきましては、添付資料「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応（アップデート）」をご参照ください。

以 上

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応（アップデート）

2025年11月13日

ステラケミファ株式会社

（証券コード：4109）

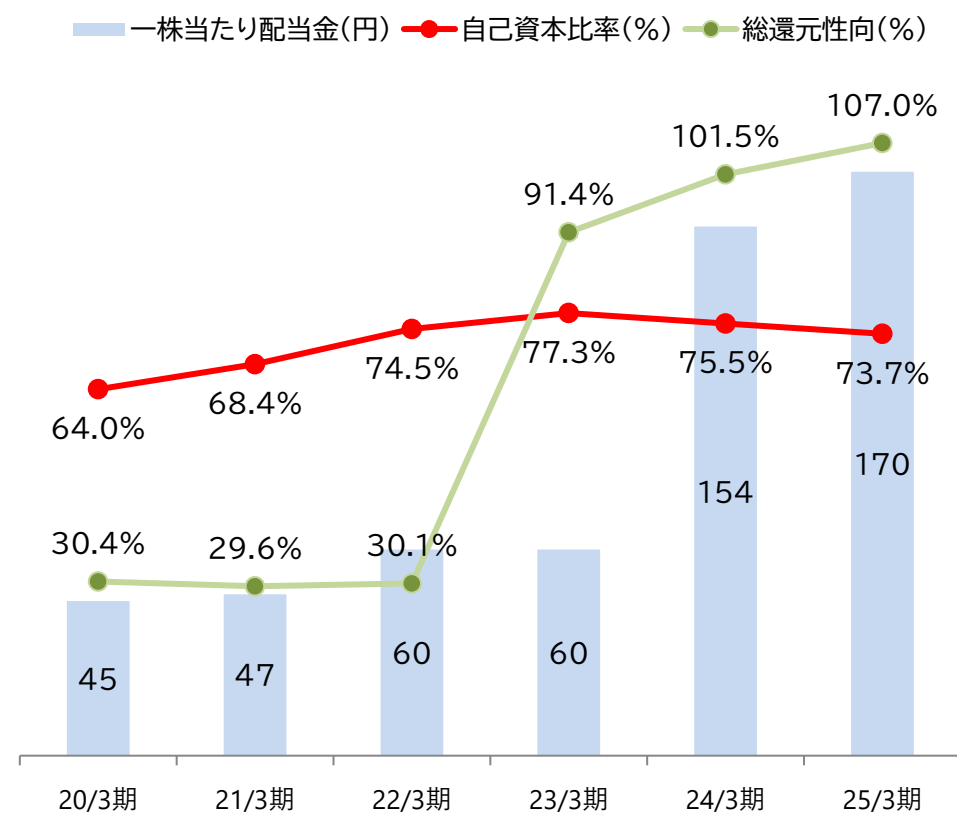
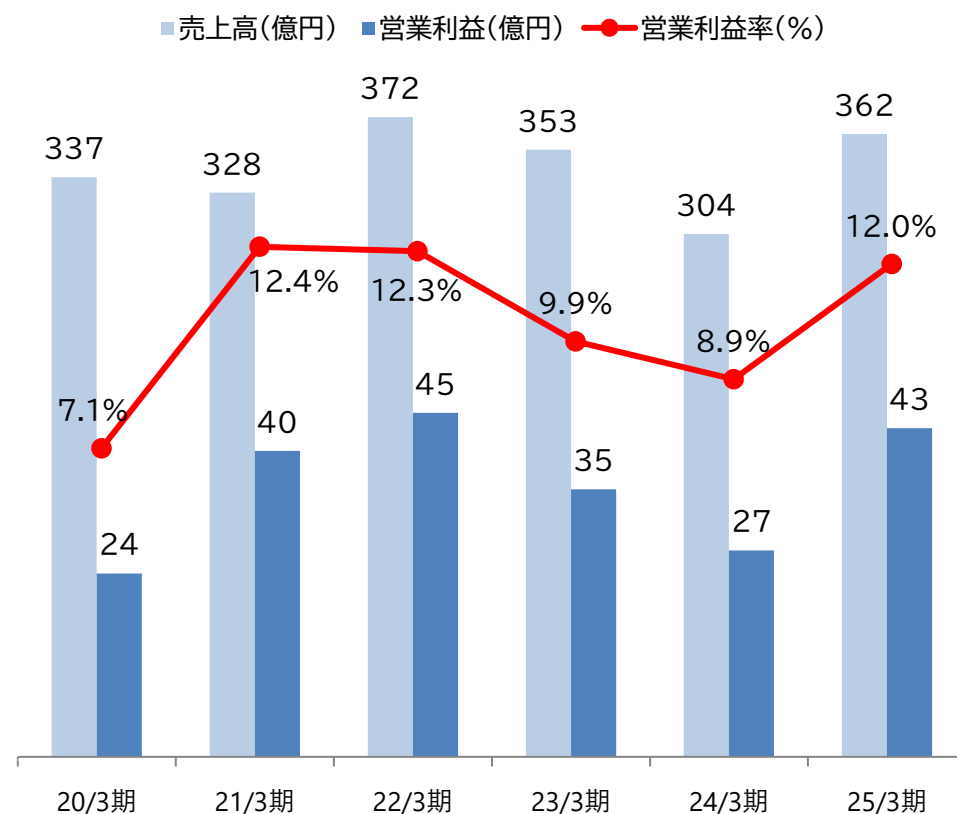
1. 現状分析

● 売上高・営業利益・営業利益率

2025年3月期においては、半導体、エネルギー部門等の売上増加により、利益水準・利益率ともに改善
トップラインの伸張と利益率の更なる改善が課題

● 配当金・自己資本比率・総還元性向

成長投資と株主還元のバランスに加え、資本効率改善を図るべく、2024年3月期より総還元性向目標を
100%に引き上げたことで、自己資本比率は低下トレンドへ転換



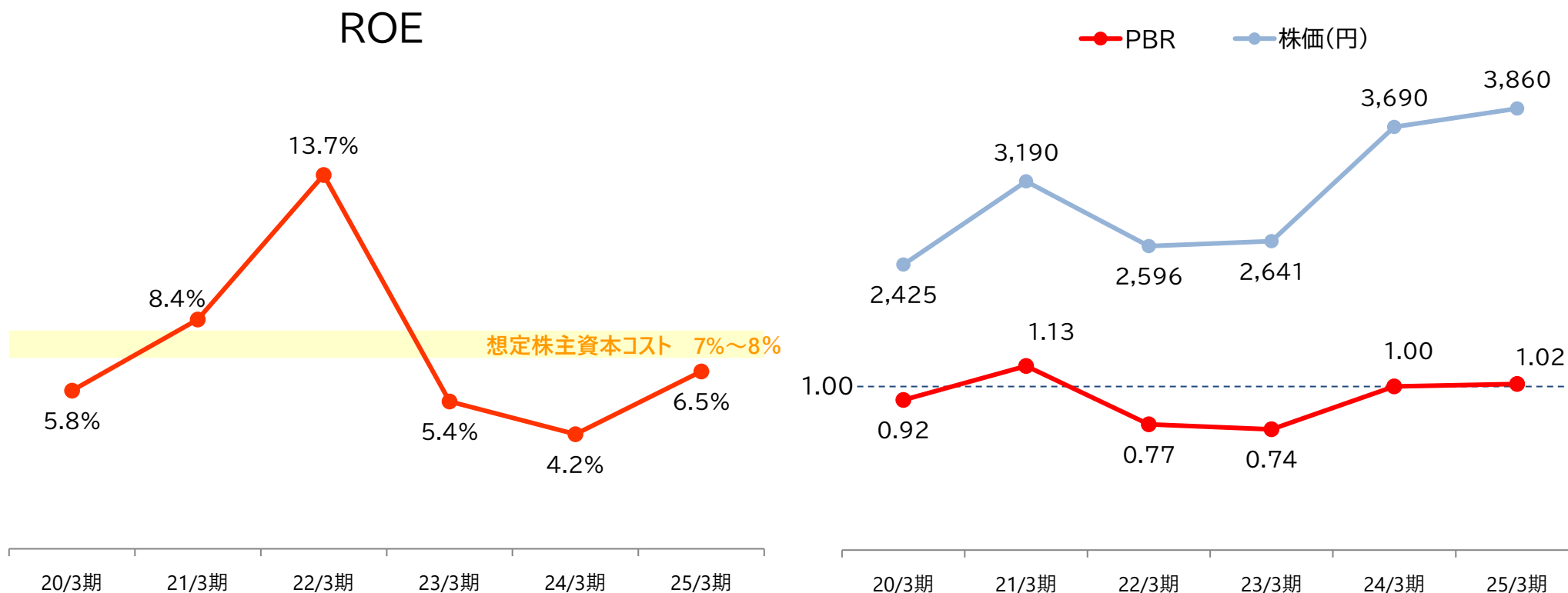
1. 現状分析

- ROE・株主資本コスト

2025年3月期は増益により改善したものの、依然として想定株主資本コスト（7%～8%）を下回る水準で推移
第4次中期経営計画期間において、ROE8.0%以上の達成を目指す

- PBR・株価

総還元性向100%以上の株主還元実施および積極的なIR活動等の結果として株価が上昇し、
PBRは2024年3月期に1倍へ回復するも、1倍付近で留まっている状況



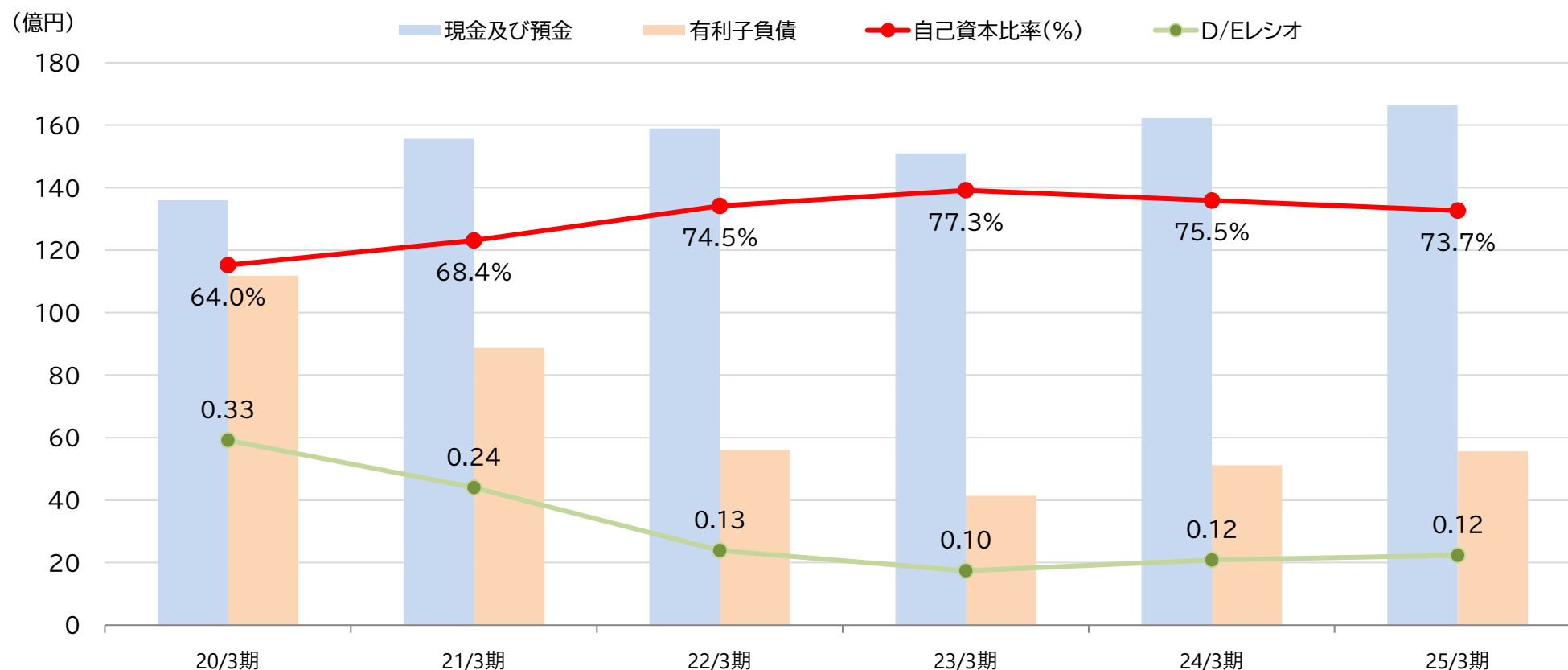
1. 現状分析

● 現預金

現預金は高い水準で推移しており、グループ資金の有効活用により削減の余地があると認識
第4次中期経営計画のキャッシュ・アロケーションを着実に実行して、残高圧縮を図る

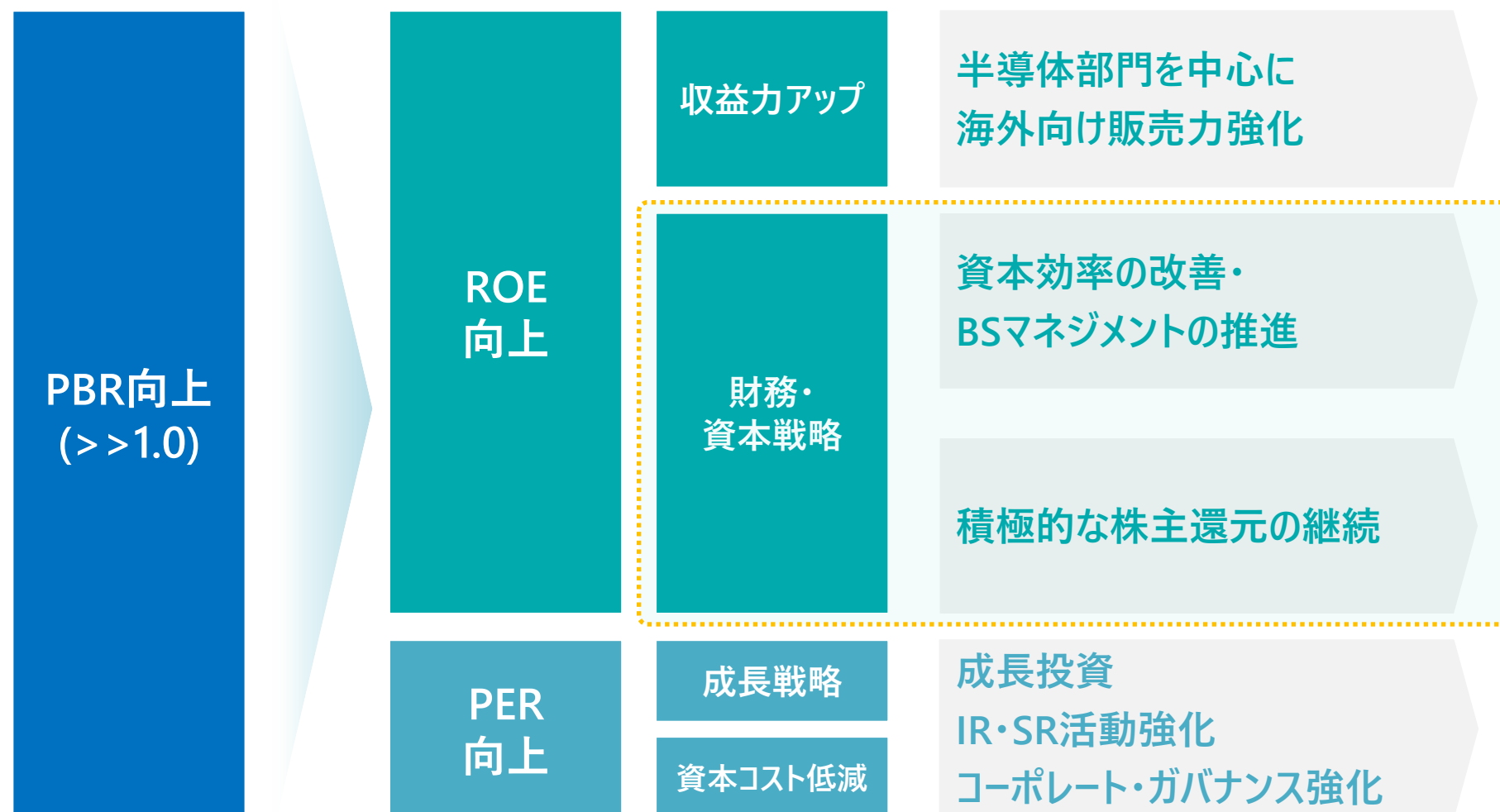
● 有利子負債・D/Eレシオ

有利子負債は2023年3月期に底を打ち、自己資本の増加抑制もあって、D/Eレシオは上昇トレンドへ転換
第4次中期経営計画では、更に有利子負債の活用を進め、資本効率の改善を図る



2. 企業価値向上へ向けた取り組み方針

- ROEが想定株主資本コストを下回っており、資本収益性の改善が喫緊の課題
- 収益力の向上については、2025年5月9日公表の第4次中期経営計画の施策を着実に進める
- 積み上がった自己資本への対応がROE改善のカギとなると認識



3. 財務・資本戦略

基本方針

第4次中期経営計画においては、企業価値の一層の向上を目指し、事業戦略及び財務・資本戦略の着実な実行により、2028年3月期に想定株主資本コストを上回る**ROE 8.0%以上の達成**を目指す。
その達成に向けて、高純度薬品事業の伸長による利益成長を実現し、損益状況に応じた適切な財務体質を実現するべく、適切な株主還元を実施する。



資本収益性

ROE目標 8.0%以上

超過利潤創出

(エクイティスプレッド)

- 顧客訴求力の向上による良質な売上拡大
- コスト削減（生産体制の強化、調達の効率化）
- 株主資本コスト低減（β値（注1）の引き下げ）

▼エクイティスプレッド

$$PBR \uparrow = 1 + \frac{(\text{ROE} \uparrow - \text{株主資本コスト} \downarrow)}{\text{株主資本コスト} \downarrow - \text{期待成長率} \uparrow}$$

最適資本構成

- キャッシュ・アロケーションの最適化
- 株主資本の増加抑制を踏まえた株主還元実施

3年間累計で総還元性向100%以上

1株当たり配当金は年間170円を下限

- 有利子負債の活用

資産効率化

- グループ資金の有効活用による保有現預金の削減
- CCC（注2）の改善（棚卸資産の圧縮、売掛サイトの短縮）

（注1） 株式市場(TOPIX)が1%変化したときに、個別株式が何%変化するかを表す指標

（注2） Cash Conversion Cycleの略称であり、原材料や商品の仕入へ現金を投入してから最終的に現金化されるまでの日数を示す指標

3. 財務・資本戦略：BSマネジメント

- 現預金・自己資本の圧縮、有利子負債の活用がBSマネジメント上の課題であると認識
- 将来的な大型投資の可能性も見据えて、段階的に最適な資本構成へ近づけていく

2025年3月期

現預金	有利子負債 55億円
166億円	
	自己資本 447億円

最適資本構成算出のアプローチ

- 格付け水準を勘案した有利子負債の調達可能額の検討
- 勘定科目別リスク係数設定による最低必要自己資本の算出
- 目標ROE達成のための最大自己資本の検証

最適資本構成へ向けた施策

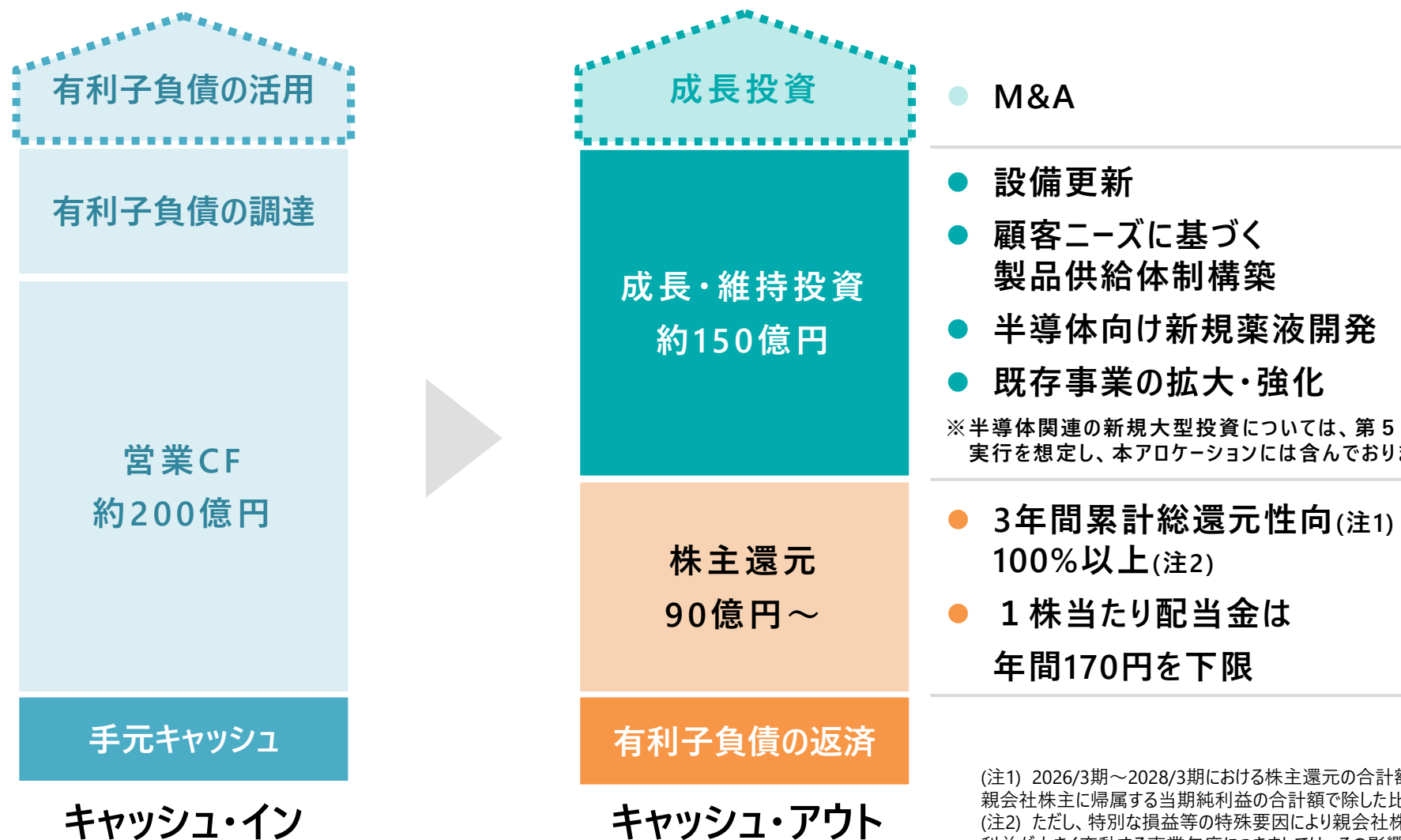
- 機動的な自己株式取得も含めた株主還元による自己資本の圧縮
- 有利子負債の活用
- グループ資金管理体制の強化
⇒グループ会社からの配当金活用等による
手元資金最適化

中期的に目指すBS

現預金	有利子負債
↑ 圧縮	↓ 活用
	↓ 圧縮
	自己資本

3. 財務・資本戦略：キャッシュ・アロケーション (2026年3月期～2028年3月期)

成長投資や株主還元を拡大するとともに、資本効率の改善に注力する



(注1) 2026/3期～2028/3期における株主還元の合計額を、同期間における親会社株主に帰属する当期純利益の合計額で除した比率
(注2) ただし、特別な損益等の特殊要因により親会社株主に帰属する当期純利益が大きく変動する事業年度につきましては、その影響を考慮して、株主還元額を決定いたします

4. IR活動強化：情報開示と建設的な対話

定量・定性情報の開示強化および株主・投資家との対話機会の拡充を図り、情報非対称性の解消に努める

IR活動

● 株主・投資家との対話の実施状況

面談実施状況（2025年3月期）

- ✓ 決算説明会：2回（期末・中間） 参加者75名
- ✓ 個別ミーティング（国内外の投資家） 74回

主な対応者

- ✓ 代表取締役社長
- ✓ 研究開発担当取締役
- ✓ 経理担当取締役
- ✓ IR担当者

対話の主なテーマや関心事項

- ✓ 業績
- ✓ 半導体市場見通し
- ✓ 原料価格動向
- ✓ 経営資源配分を踏まえた成長戦略
- ✓ 財務戦略
- ✓ 研究開発

取組み 情報開示と建設的な対話

株主・投資家との対話を踏まえた対応

（実施内容）

- ✓ 総還元性向100%以上を目標（2024年3月期～2025年3月期）
- ✓ 自己株式の取得
- ✓ 自己株式の保有・消却に関する基本方針を定め、自己株式の消却を実施
- ✓ 従業員向け譲渡制限付株式付与制度の導入
- ✓ マテリアリティ、気候変動への対応の開示実施

2025年3月期以降のIR・SR面談における対話の内容

（主なテーマや関心事項）

- ✓ 第4次中期経営計画の成長戦略について
- ✓ 最適な自己資本比率やD/Eレシオ
- ✓ キャッシュ比率の高さ
- ✓ ROE向上施策

積極的な対話を継続し、収益性の向上・資本効率の改善を図る

免責事項

本資料に掲載されている業績見通しに関する事項については、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、将来の業績を保証するものではなく、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

本資料に記載された内容は、事前の通知なくして変更されることがありますので、あらかじめご承知おきください。また掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関しましては、当社は一切の責任を負うものではありません。

本資料は、当社事業へのご理解をいただくために作成したものであります。

投資に関するご判断はご自身での責任で行われますようお願い申し上げます。